

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



### 社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304

静岡県浜松市細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.imix.or.jp/kohituji/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2006年9月20日

第 286 号

## 二つのキリスト教福祉施設から学んだこと

理事長 稲松 義人

九月九日、「横須賀基督教社会館」が創立六〇周年のお祝いをされるのが案内をいただき、出席してまいりました。この社会館の館長、阿部志郎先生は、社会福祉界を代表するリーダーのお一人として日本国内のみならず国際的にも尊い働きをしておられ、ご存じの方も多いかと思えます。私も何度か、阿部先生の講演を聞かせていただいたことがあります。きつとご多忙中、ご自分の施設には多くの時間を割くことができないであろう先生が、そこで実際にどんなお仕事をされてきたのかはあまり知りませんでした。最近になって何冊かの書籍によって、横須賀基督教社会館の歴史を知り、先生が講演でお話くださった社会福祉の本質や理念にそって、実際に横須賀市の田原という地域の中でどのように取り組んでこられたかということから、多くのことを学ぶことができました。

横須賀基督教社会館では、住民が便利に利用できる施設作りを目標にしてきたのではなく、施設の立つ地域にコミュニティ（助け合いの輪）が育つことを願って、そこを拠点に活動をしてこられたのだと感じました。それは、

福祉の実践において、その主体者は利用される人たち（地域に住む人たち）自身にあることを徹底して考えてこられたことによるのだと思います。

私たちは、利用される人たち（私たちの場合、多くは障がいのある方とそ

のご家族）からの要望に応えて、できるだけ喜んでもらえるような「施設」を作り、必要とされる「施設」の数を増やすことを考えてきました。しかし結果として、障がいのある人たちが地域（まち）の中で、周囲の人たちとの交流の中で生活するチャンスを奪ってきたのではないかと思わされます。また、その事業展開の主体は、施設を設置し、そこで仕事をする私たち（事業者）であったと思います。

昔、障がいのある人が生活する場として、コロニー（大型施設）が建設された時代がありました。しかし、それは収容隔離であるとして非難され、ノーマライゼーションの理念の下で施設の解体が図られるようになりました。今回施行された障害者自立支援法も、その目的の大きな柱として、施設から地域へという方針が掲げられ、目標値も示されています。入所型の施設、特に長期間利用するのは、あってはならないことのようなプレッシャーがかかっているように感じます。

さて、千葉県館山市に「かにた婦人の村」という全国で唯一の長期滞在型

の婦人保護施設があります。売春防止法により、暴力による人権侵害から女性を保護するための婦人保護施設がありますが、一時的な保護では更生できない人たちのために、長期保護施設として当時の厚生省の支持もあって設置されたのが「かにた婦人の村」です。

今年、この施設を訪問する機会があり、そこに生活する人たちが、職員の方たちにお目にかかり、心温まる開放感に感動を覚えたのでした。敷地の中には、居住棟がいくつかあり、農園、陶芸、手芸、リサイクル活動などの働く場があり、そこでは、まさしく皆が一緒に生活しておられることが感じられました。ここに住んでおられる人たちが、初対面の私たちに明るい声をかけてくださいました。ここでは、職員さんたちも共に働き、共に生活をしておられるという様子でした。リサイクル活動では、全国から寄せられた古着などに手を加えて、地元の人たちにも開放してバザーをし、海外の支援の必要な人たちに送ったりしておられます。この「コロニー」は、隔離するための施設ではなく、女性たちの人権を守りつつ、安心して共に生きる場を提供しているのだと思いました。

二つの施設、社会福祉の実践の手法としての違いはありますが、どちらもそこで生活している一人ひとりが生かされる場をつくり、命をつなぐ取り組みをしておられるのだと思いました。

## 暮らしの場としての 児童寮・青年寮

つのぶえ 284 号では、小羊学園（児童寮・青年寮）の  
日中活動について紹介させていただきました。  
今回は、暮らしの場としての児童寮・青年寮を  
ご紹介したいと思います。  
暮らしの場については、  
一部の人たちが地域の中での生活に移りはじめていますが、  
今も約 50 人の人たちは、  
施設（小羊学園）で生活しています。

### 快適な生活環境とは……

児童寮 二階 藤井美和

児童寮二階に住む利用者の方々は、他のゾーンに比べ、身体機能の弱い方が多い。そのため利用者の動きはゆっくりで、まるでそこだけゆったりとした時間が流れているかのように感じる。そんな児童寮二階の快適な生活環境とは何だろうか……と考えてみる。  
歩行不安定な人たちの安全に配慮し、物を整頓すること、清潔であることに



▲ 児童寮二階の生活

は常に気を配っている。テレビ前に置かれたソファーに利用者と一緒に腰掛けながら考えてみる。テレビの音、ラジカセから聞こえる音楽、忙しく動く職員の足音や声があちらこちらから聞こえ、集中できない。そんな中で、利用者の方々は暮らしているのだと改めて感じる。テレビを見るのが好きな人、音楽を聴くのが好きな人、彼らはこの様々な音をどのように感じて生活を送っているのだろうか。集団生活の中で、個々が他人に邪魔されることなく好きなものを楽しめる環境を整える工夫、そして時には一緒に楽しめる工夫が足りないと感じた。

また、利用者の方々は職員をよくみている。職員の大きな声に驚き、不安な顔で声のする方を確かめる。職員がかける一声に笑顔になる。職員こそが利用者の方々にとって影響を与える大きな環境のひとつなのだ。職員の関わり方（声のかけ方、接し方、態度など）が、利用者の生活が快適になるのか、不快になるのかを左右するといってもよいのではないか。

### 生活単位の大きい生活の 中での配慮とは

青年寮 男子棟 紅谷 純

男子棟の生活単位はとても大きく、一人ひとりへの配慮がまだまだ行き届かない部分もあり、難しさがあるのが現状です。男子棟の中で二〇名近くの利用者が生活していくのは困難です。空間的に狭く、物が置けない状況もあります。しかし、生活の質を高めるためには、「何をどうしたら良いのか」をここ数年かけて職員間で検討してき



▲ 青年寮男子棟のメンバーで遠足

ました。環境面では、トイレや風呂場に手すりを付ける、装飾で季節感を感じ、生活がしやすい環境へと近づけることを行ってきました。  
入浴については、「もっとのんびりと入りたい」という利用者の気持ちを代弁し、職員の勤務時間も変更し入浴時間の延長もしてきました。また、利用者の生活の質を高める為には、個別支援計画書の見直し・検討が必要であり、個人個人にスポットを当てていくことで、実際に現場の中でどう生かしていくか、が何よりも大切だと感じています。利用者との関わりも大切に、時間をかけてやりとりをしながら、そ

充実感を持てるように意識し支援していききたいと思います。一日一日を大切にし、充実したものにしていききたいと思います。また、利用者のプライバシーへの配慮も今後の課題となり、検討していきたいと思っています。

利用者を個人的に見た時に、自閉的傾向が強く行動障害を伴う方々、身体的に機能低下が見られる方々等タイプも様々です。環境を整えていくのも大切ですが、生活のリズムや日中活動等へも目を向けなくてはなりません。制度改革を受けて、これまで以上に日中活動とナイトケアを区別していきたいと思えます。職員配置は大変ですが、活動の場の充実が生活全体にプラスになることを考え、地域での活動の場の拠点づくりに並行して取り組んでいます。今後、居住の場も地域へ移行していくことも考えた支援をしていきたいと思えます。

ユニットを最大限に  
活かしたケアを目指して  
地域移行への布石となる為に

青年寮 女子棟 濱田裕子

女子棟の最大の特徴は、扉で区切られた中に、リビングを中心にして、個室ではありませんが居室二室、食堂、トイレ、浴室等から成り立った、独立した生活環境（ユニット）になっています。

るといふ点です。今現在、この女子棟では八名の利用者さんが生活しています。しかし、この恵まれた環境を、これまでなかなか機能的に活用しきれていなかったというのが現状です。

また、これとは別に、一〇月より青年寮で自活訓練ホームを立ち上げることとなり、女子棟より四名の利用者さんが地域での生活に移行してゆくことになりました。これまで会議で、一人一人の現状（行動の傾向）や課題、今後の生活について何度も話し合いを重ね、地域に出てゆく可能性を協議してきました。地域での暮らしの中から新たに得られる経験（体験）や生活習慣が、この四名にとってより良い生活に結び付くことを期待しています。

この移動に伴って、児童寮二階より新たに、動きの少ない四人の利用者さんが移動となり、一〇月より新体制での女子棟がスタートすることになりました。上記で述べた様に、有効的に活用できていなかった女子棟の空間が、最大限に発揮される時であると思えます。多様な障がい像をもつ利用者さんが暮らす青年寮において、女子棟での過ごし方は大変重要になってきます。ハード面での環境整備もさることながら、新たな利用者さんから醸し出される、ゆったりとした雰囲気や支援者がしっかりと受け止め、学ぶことが重要になってきます。また、職員配置や勤務の流れなどの見直しも、早急に



地域への移行を目指す青年寮女子棟のメンバー ▲

検討し、一番地域生活に近いユニットケアとして、独自の支援を進めてゆきます。今後、施設の生活においても「ナイトケア」「デイケア」と分離した生活が求められます。女子棟の空間が担う「ナイトケア」の生活を心地よいものにすべく、職員が意識を持ち取り組んでゆくこと、また、八名という小さなユニットであるがゆえの臨機応変さを常に持ち続け、今後の支援に当たってゆきたいと考えています。

成長する子どもたちの  
暮らしの場

児童寮 一階 坪井智代

先日、浜松養護学校の体育大会に出

掛けました。私が毎年楽しみにしている行事の一つです。親御さんに混じって背伸びして見つめる先には、一年前と比べるとひとまわり大きくなった子どもたちの姿がありました。

小学、中学、高校と年を追って見られる変化には、身体的な目に見える成長とは別に、目には見えにくい心の成長があります。ともすると障がいのある子どもたちを見るとき、出来ないことばかりに目を奪われがちですが、子どもたちはその子なりに確実に身体と心が成長しているのを感じます。

そんな成長過程の子どもたちにとって、児童寮はどんなところなのでしょう。今の児童寮（一階）は、幼児、小学生の頃には、在宅の子どもたちがショートステイという形で毎日のように入所するところでした。小学五、六年あたりから中学、高校の年代になると、家庭での対応に困難が生じてくることがあり、その時期に必要なに応じて入所を受け入れます。その人たちにとっては、児童寮は暮らしの場となってきました。今の児童寮には、原則として子どもたちには個室はありませんし、養護学校を卒業し、成人に達している人たちまで含めた大勢での生活です。決して十分な環境ではありません。子どもへの施設は、基準では大人の施設より小さいことになっていますが、実際には、中学、高校の年齢になると、男の子たちのなかには青年寮の人たち



▲ 小羊学園運動会 パン喰い競争

より背が高くなり、行動も活発です。そんなことから、児童寮一階は特に空間として狭いと強く感じています。また、最近の利用者には、自閉傾向の強い子どもたちが多いため、人が多く、多くの刺激が裂けられない空間は、とても気の毒な暮らしの場になっていくのだと思われています。

それにも拘らず、子どもたちはゆったりと成長していつてくれているように感じられるのは、きつと子どもたち一人ひとりがもっている成長する力であり、可能性なのだろうと思っています。

十月一日より  
おおぞら療育センターの運営を  
聖隷福祉事業団へ移管

つのおぶえ二八一号でお知らせいたしましたように、重症心身障害児施設おおぞら療育センターの運営を社会福祉法人聖隷福祉事業団に移管する準備をいたしました。十月一日付で正式に同センターの運営の移管が完了しました。

同施設は一九七三年（昭和四八年）五月に、小羊学園で年長になった子どもたちも受け入れる施設として、静岡県重症心身障害児（者）を守る会の皆さんの協力により開設した施設です。

医療施設（病院）としての機能をもつ福祉施設として、最近特に医療的重症児者の利用が増え、隣接する聖隷三方原病院との連携の必要性がさらに高くなっていました。障害福祉の制度の行方はいまだ不透明なところもありますが、医療的ケアの必要な利用者にとって、聖隷三方原病院と一体運営されることで機能的に充実することになります。長年にわたっておおぞら療育センターの働きのためにご支援いただいた皆様には、心より御礼を申し上げます。新たなスタートとなりました。「聖隷おおぞら療育センター」についても変わらずご支援くだされば幸いです。

（理事長）

❖ 支える会だより ❖

小羊学園児童寮・青年寮の移転改築計画を覚えて、何人かの方からお手紙やご献金をお送りいただきました。ありがとうございます。周囲に呼びかけたいのですが、趣意書のようなものがありますかとお問い合わせがありました。ご配慮ありがとうございます。小羊学園改築についての趣意書をお読みいただけます方にはお送りしますので、ご一報ください。

（連絡先）  
〒431-1304 浜松市細江町中川 7440-1 小羊学園  
FAX 053-437-0849  
Eメール kohituji@imix.or.jp

担当：稲松義人

2006年度 小羊学園を支える会 寄付金報告

月	件	(円)
8	41	1,042,329
累 計	262	5,221,971

皆様のご支援に心より御礼申し上げます

❖ 小羊学園改築計画にご協力ください ❖

（口座名義）「小羊学園を支える会」  
郵便振替口座 00890-4-45415  
りそな銀行浜松支店（普通）040005  
静岡銀行細江支店（普通）043483

❖ わかぎ秋祭りのご案内

支援センターわかぎでは、左記のとおり秋祭りを開催します。お誘い併せの上、ご参加いただければ幸いです。

記

とき 平成一八年一月二二日(日)  
午前一〇時～午後二時

ところ 支援センターわかぎ  
(浜松市平口五〇四二)

内容 模擬店、フリーマーケット、創作店、他

※フリーマーケットへの参加者を募集しています。皆様からのご連絡をお待ちしています。

お問い合わせ 支援センターわかぎ

☎(053)五八七二六一四

編集後記

いよいよ障害者自立支援法による事業がスタートしました。小羊学園では、小羊デイケアホームなど三箇所の通所事業が「生活介護」という事業種別になり、温心寮など二つのグループホームが「共同生活介護（ケアホーム）」という事業種別で運営することになりました。制度の変更による様々な事務手続きが複雑で煩雑で、事務担当者には対応に悲鳴を上げています。果たして必要なのだろうかという疑問をもちつつも、避けて通ることはできません。皆様にも色々ご迷惑をおかけしているのかも知れませんが、お許しください。長い夜 書類に追われ 春を待つ (1)